

電源地域 振興センター事業

通 用 例 紹 介

佐賀県玄海町における ミシマサイコ茶の商品化

玄海町には九州大学薬学院・工学院等と共同の重要生薬(薬草)の生産開発研究施設「玄海町薬用植物栽培研究所」が設置されています。そこで栽培された薬草「ミシマサイコ」を原料としたお茶の商品化と販売を目的に資する専門家の派遣を行いました。

商品化にあたり、まずは町としての将来の薬用植物に対するビジョン、販路、販売方法などマーケティングの基本要素を考えていきました。続いて、ミシマサイコに合う14種類のサンプルを専門家が用意し、町役場職員や一般参加者の方々に試飲して頂き、香り、口に入れた時の香味・食感、食べ物との相性などの評価を行いました。これらの助言が実を結び、「みしまさいこさんの愛情茶」として商品化されました。ミシマサイコの葉や茎をベースに柿や桑の葉も加え、薬草独特の渋みを抑え、あっさりした風味で緑茶に似た味わいに仕上がりました。町民の皆様からも好評を得ています。平成26年4月からは町役場などで



みしまさいこさんの愛情茶



試飲の様子

「専門家派遣事業」のご活用事例を紹介いたします

当センターでは、電源地域が抱えている課題の克服や問題の解決に向けて、各分野の専門家が現地指導を行う「専門家派遣事業」を行っております。本事業は対象とする事業分野を問わず事業形態も自由なため、様々な課題を解決する「契機」としてご活用頂いております。今回は、平成25年度に当事業をご活用頂いた事例の中から「佐賀県玄海町におけるミシマサイコ茶の商品化」と「福島県只見町における元気な集落再生ワークショップ」を紹介いたします。

ワークショップの様子



フィールドワークの様子

販売しているほか、今後「ふるさと納税」のお返し品として送り、町の新名物として全国にアピールする予定で、地域を元気づける新産業に育つことが期待されています。

福島県只見町における 元気な集落再生ワークショップ

只見町は、若者の都市部への流出やそれに伴う後継者不足などから、次第に過疎化が進んでおります。そのような状況を打開するため、地域の方々が自治振興会を立ち上げ、地域活性化に取り組もうと活動されておりました。今回は、地域活性化を進めるにあたり、地域の方々自身が自分たちの集落の良い点を新認識・再認識し、地域資源の掘り出し手法を学んで頂くことを目的に、①ワークショップ形式の会議、②カードを使ったKJ法による意見の整理、③フィールドワークと絵地図づくり、の3つの手法について専門家の助言を行いました。

フィールドワークでは、ワークショップで挙げた地域資源を分野別に分け、①まちなか・くらしコース、②農業・産業コース、③都市・農村交流コースに分けて実際にまち歩きしたところ、地域

の方々もこれまで見落としていた特色ある地域資源に気付くことができました。また、今後の活用方法を議論したところ、新たな特産品開発や1ターンの古民家に活用できるのではないかなど、地域の方々から活発な意見が飛び交い、只見町の地域活性化のきっかけ作りに貢献できたものと考えております。

終わりに

このように「専門家派遣事業」は、対象とする事業分野や形態を問わず「使い勝手のよい支援事業」として評価していただいております。今回ご紹介した商品開発や地域おこし以外にも、観光開発、エネルギー勉強会、企業誘致や農業振興など、様々な課題を解決する「契機」としてご活用頂けます。

平成26年度も「専門家派遣事業」のご要望を随時受け付けております。詳しくは当センターのホームページをご覧ください。お気軽にお問合わせください。

■地域振興部 振興調査課

☎03-6372-7306

eメール: senmon@den-gen.or.jp